

令和6年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 中国語中国文化学科・助手

申請者氏名 山本 優子

研究課題		中国人作家夏衍と日本人作家の交流について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	夏衍は、日本で成立した文学団体、創造社の初期メンバーより少し下の世代に当たる。そのため、谷崎潤一郎や金子光晴夫婦が訪中した際は、日本留学中であり、彼らとの交流は叶わなかった。しかし夏衍帰国後には内山書店を通して様々な日本人と交流した。夏衍は自伝『ペンと戦争』の序文の中で、日本の友人として内山完造・嘉吉兄弟、鹿地亘夫婦、尾崎秀実、山上正義、西里竜夫などの名前を挙げている。本研究では、夏衍は彼らとどのように知り合い、どのような交流をしていたのか資料を通して明らかにしていくことを目的としている。
	研究 の 結果	今年度は夏衍と日本の友人との交流について研究を行った。夏衍は日本の友人たちと内山書店の店主、内山完造の紹介により出会った。そのため、本論文では初めに内山書店とその店主、内山完造について調べた。多くの日中文化人が内山書店を訪れた理由として、店主の完造の人柄、貸売をしたこと、魯迅が常連でありほぼ毎日同じ時間に内山書店を訪れていたことを挙げた。 次に、尾崎秀実、山上正義、西里竜夫とどのように出会いどのような交流をしたのかを調べ、夏衍が困っている際に、彼らが助けてくれていたことがわかった。最後に鹿地夫婦との交流について調べた。鹿地が困難な時に夏衍に助けを求め、夏衍に窮地を救ってもらったこともあった。また、鹿地亘が書いた反戦劇『三兄弟』を夏衍が翻訳し、夏衍が編集長を務める新聞に掲載したり、出版したりもしていた。 日中戦争が始まる前は日本人が治外法権である租界に住んでいたことから、中国人を助けることが多く、戦争が始まると中国人側に助けてもらうことが多くなった。互いに助け合いながら波乱の時代を過ごしていたことが明らかにできた。
	研究 の 考察・ 反省	夏衍が友人として挙げている人数が少なくなかったため、一人一人についての言及が少なくなってしまう。また、紙幅の関係で触れることができなかったエピソードなども多くあったことが反省点である。しかし夏衍が挙げている友人同士にも交流があることがわかり、研究をしていく中で様々な発見があった。 今後はさらに多くの文献を調べ、友人の一人一人との交流内容について、より研究を深めていきたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 山本優子「夏衍と日本の友人との交流について」『中国語中国文化』第22号、2025年3月、 日本大学大学院文学研究科中国学専攻	